

## 令和4年度有機フッ素化合物環境中実態調査結果(冬季)について

### 1 概要

- (1)平成 28 年度に水道水源を除く県内の主要河川や地下水で全県的な PFOS 等調査を実施し、平成 29 年度からは高濃度の PFOS 等が検出された米軍基地周辺で有機フッ素化合物の調査を毎年、夏季、冬季の2回行っている。
- (2)令和4年度冬季は 44 地点の湧水・河川等で調査を実施。

→最大濃度は、嘉手納町の屋良ウブガーの 1,800 ng/L

<調査地点数 及び 暫定指針値超過地点数>

調査地域	指針値超過／調査地点	合計
普天間飛行場周辺	11／20	30／44
キャンプ瑞慶覧周辺	1／1	
嘉手納飛行場周辺	12／13	
キャンプマクトリアス周辺	4／7	
キャンプハンセン周辺	2／3	

- (3)環境省が暫定指針値を設定した令和2年度以降の調査結果と比較して、濃度については、ほとんどの地点で最大値以下の範囲で増減しており、同指針値を超過した地点は、30 地点から 38 地点の範囲で増減している。以上のことから、有機フッ素化合物による汚染状態は、変動はあるものの概ね横ばいの傾向で続いている。

### 2 今後の対応等

- (1)令和5年度の調査を実施するとともに、暫定指針値の超過地点については、環境省が作成した手引きに基づき、飲用に供しないよう、関係市町村や地元自治会を通じて周知していく。
- (2)普天間飛行場や嘉手納飛行場周辺の湧水等における PFOS 等汚染は、両飛行場が汚染源である蓋然性が高いことから、引き続き国や米軍に対して、立入調査や国による原因究明等を求めていく。